

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 昭61-82290

⑬ Int. Cl.⁴
G 07 D 7/00識別記号 庁内整理番号
7257-3E

⑭ 公開 昭和61年(1986)4月25日

審査請求 未請求 発明の数 2 (全6頁)

⑮ 発明の名称 紙幣の識別方法及び装置

⑯ 特 願 昭59-200877

⑰ 出 願 昭59(1984)9月26日

⑱ 発 明 者 青 山 収 司 大阪市西区南堀江1丁目12番2号 株式会社ビルテエフカ
ー内

⑲ 出 願 人 岩 本 博 義 大阪市西淀川区大野1丁目8番23号

⑳ 代 理 人 弁理士 北 村 修

明 細 書

1 発明の名称

紙幣の識別方法及び装置

2 発明の要旨

① 磁性インクにより印刷された紙幣の所定印刷部分に含まれる磁気をスキューニングにより検出し、その検出信号をパルス化して予め記憶した基準信号と比較することにより、紙幣の真偽を判別する紙幣の識別方法であって、前記パルス化信号と基準信号との比較を、両信号の、同一スキューニング位置での比較により行なう紙幣の識別方法。

② 前記基準信号が紙幣の真偽や金額を識別するためのものである特許請求の範囲第①項に記載の紙幣の識別方法。

③ 磁性インクにより印刷された紙幣の所定印刷部分に含まれる磁気をスキューニングにより検出する磁気ヘッド、及び、この磁気ヘッドにより検出された磁気をパルス化する手段を備え、そのパルス化信号を、予め記憶した

内にストアした各種別基準信号と比較することにより、紙幣の真偽や金額を判別するように構成した紙幣の識別装置であって、前記パルス化信号と基準信号との比較を、両信号の、同一スキューニング位置での比較により行なう、比較手段を設けてある紙幣の識別装置。

3 発明の技術的説明

(産業上の利用分野)

本発明は、紙幣の真偽や金額を識別する方法及びその装置に関する。

さらに詳述すると、磁性インクにより印刷された紙幣の所定印刷部分に含まれる磁気をスキューニングにより検出し、その検出信号をパルス化して予め記憶した基準信号と比較することにより、紙幣の真偽を判別する紙幣の識別方法及び装置に関する。

(従来の技術)

従来、紙幣の識別のための手段としては、例えば、光電センサにより紙幣の磁気パターンを

チェックする手段、或は、磁気センサにより特定の印刷部分の磁気の有無をチェックする手段等が知られている。しかし、これら従来手段による場合、前者においては複雑な印刷パターンとの判別が困難であり、また、後者においては単に磁性体を付着しただけの偽札を真札から区別することができなかった。

そこで、先に、以下に示すようなものが提案された。即ち、磁性インクにより印刷された紙幣の所定印刷部分に含まれる磁気スキャンニングにより検出し、その検出信号をパルス化した信号のバース数をカウントすることにより、紙幣の鑑別を行なうようにしたものである（特開昭58-10055号参照）。

上記従来手段による場合には、単に磁気の有無だけでなく、磁気強度に応じたバースの数をチェックするから、より精度の高い紙幣の鑑別を行なえるようになったものの、例えば、金種が違っても、紙幣の所定印刷部分から検出されるバースの数が同じでもその時間軸上でのバース出現

位置が異なる、即ち、印刷パターンが異なる場合にはそれらを判別することができず、改良の余地があった。

（発明が解決しようとする問題点）

本発明の目的は、上述の実情に鑑み、印刷パターンが異なる紙幣を、精度よく識別できるようにすることにある。

（問題点を解決するための手段）

本第1発明による紙幣の鑑別方法の特徴構成は、磁性インクにより印刷された紙幣の所定印刷部分に含まれる磁気スキャンニングにより検出し、その検出信号をパルス化した信号と、予め記憶した基準信号とを、所信号の、同一スキャンニング位置で比較することにより紙幣の鑑別を判別することにある。

また、本第2発明による紙幣の鑑別装置の特徴構成は、紙幣の所定印刷部分の磁気を検出する磁気ヘッドによる検出信号をパルス化手段によりパルス化した信号と、予め記憶手段内にストアした金種別基準バース信号とを、両信号の、

同一スキャンニング位置での比較により行なう、比較手段を設けたことにある。

上記特徴構成による作用効果は次のとおりである。

（作用）

つまり、パルス化した信号のバース数のみならず、時間軸上におけるパルス化信号の出現位置をも比較することで、磁性インクで印刷された印刷パターン全体の比較によって、紙幣の鑑別を判別するのである。

（発明の効果）

その結果、従来に比べて、より一層精確な紙幣の真偽鑑別を行なえるようになった。その上、従来は鑑別することができなかった、パルス化信号数が同じで印刷パターンの異なる紙幣をも、互いに鑑別できるようになった。

（実施例）

以下に、図面に基いて、本発明方法を適用した紙幣の鑑別装置の実施例を説明する。

図2例は、紙幣(5)の鑑別装置を示している。

(1)は装置本体であり、この装置本体(1)上面に形成した、紙幣(5)の巾にはほぼ等しい巾を持つ滑らかな紙幣送り経路(2)に縦向き込む上蓋(3)を、軸心(P)周りで視線で開閉自在に取り付けてある。装置本体(1)には、外面面が紙幣送り経路(2)の底面から若干突出する状態の3個の紙幣送り用ローラ(4)が取り付けられており、それら3個のローラ(4)はモータ(5)により正逆転自在に連動駆動されている。上蓋(3)には、装置本体(1)の紙幣送り用ローラ(4)と相対する位置に、3個の回転ローラ(6)が取り付けられており、それらローラ(6)は、上蓋(3)閉鎖状態で、紙幣送り用ローラ(4)上を運ばれる紙幣(5)を、送り用ローラ(4)側に押し付けるように構成してある。

また、紙幣送り経路(2)のほぼ中央部分の上蓋(3)に、経路(2)を通過する紙幣に当接して、紙幣(5)上に磁性インクで印刷された磁気情報を検出する磁気ヘッド(7)を取り付けるとともに、この磁気ヘッド(7)に相対する位置の磁気

本体(1)内に、印え用ローラ(9)を取りつけてある。更に、装置本体(1)内に、経路(2)内での紙端(5)の有無を検知する、夫々ホトインタラプタからなる2個の光電センサ(8)を設けてある。

次に、この鑑別装置の動作について、第1図乃至第3図を用いて説明する。

上置(3)同類状態で、上置(3)と紙端送り経路(2)との間に形成される紙端挿入孔(10)に紙端インクにより印刷された紙端(5)が挿入され、この紙端挿入孔(10)近傍に設けた、第1センサ(8a)がそのことを検知すると、モータ(5)を正転させ、3個の紙端送り用ローラ(4)を正転駆動させる。経路(2)のほぼ中央部に設けられた第2センサ(8b)が紙端(5)の通過を検知すると、吸気ヘッド(7)により、第3図(4)に示す紙端(5)の所定範囲に含まれる紙端を、スキャンニングにより検出し、紙端信号増幅器(11)、及び、高周波雑音を除去する低域濾波器(12)を通過させて、第3図(4)に示すような、促進イ

シグナルの濃度に応じて増減するアナログ信号を得る。尚、第3図(4)中の一点破線は、紙端ヘッド(7)のトレース軌跡である。

そして、この信号と、紙端送り用ローラ(4)に連動連動したロータリエンコーダ(13)の第3図(4)に示す出力信号とをA/D変換器(14)に入力する。A/D変換器(14)内において、スキャンニング位置の定量化のために、ロータリエンコーダ(13)の出力信号をトリガ信号として、アナログ信号をデジタル変換し、変換後の信号を所定期間(15₁〜15₂)に亘って、記憶手段(15)にストアする。

全信号のストア終了後、この信号を読み出し、その紙端の濃度等による検出紙端レベルの差の安定化のために、二値化手段(16)により、このデジタル信号の最大レベル(5_{max})と最小レベル(5_{min})との平均として得た平均値(5_{ave})を閾値「スレッショルドレベル」として、第3図(4)に示す二値化信号に変換する。そして、この二値化信号と、予め貯の記憶手段(17)内に

記憶した金種別基準二値化信号とを、比較手段(18)によって、両信号の、同スキャンニング位置で比較することによって、経路(2)内を通過する紙端(5)の真偽及び金額を鑑別するように構成してある。

そして、第3図(4)に示すように、二値化信号どうしが一致しなければ、被検出紙端(5)が偽札であると判別し、モータ(5)の逆転で紙端送り用ローラ(4)を逆転させ、その紙端(5)を紙端挿入孔(10)に戻すように構成してある。また、第3図(4)に示すように、二値化信号どうしが一致すれば、被検出紙端(5)が真札であると判別し、第3センサ(8c)による紙端(5)通過検知により、上置(3)に設けた表示器(19)に、金種別に表示するとともに累計金額を表示し、紙端吐出孔(20)からその紙端(5)を送り出すように構成してある。

本発明を実施するに、デジタル変換後の信号を一時的記憶手段(15)にストアする方式に替えて、デジタル変換後の信号を逐次二値化して

金種別基準二値化信号と比較するようにしてもよい。また、検出紙端信号の安定化を図るために、先の実施例での二値化に替えて、予め天然紙石等により所定の印刷部分の粗度を微細化するようにしてもよい。

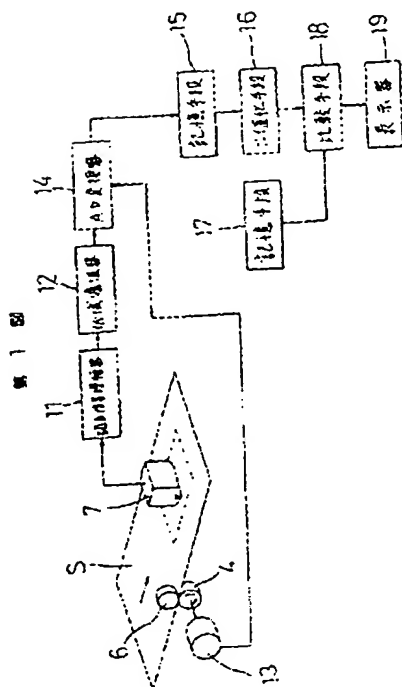
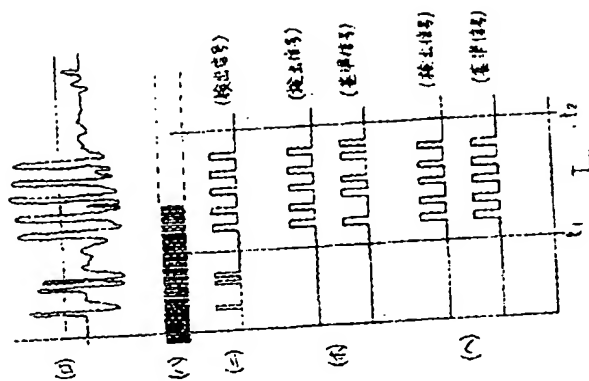
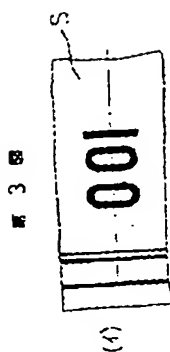
さらに、検出したアナログ紙端信号をデジタル化するに、A/D変換器(14)に替えてウインドコンパレータ等を用いてもよく、それらをバルス化手段(14)と称する。

4 図面の簡単な説明

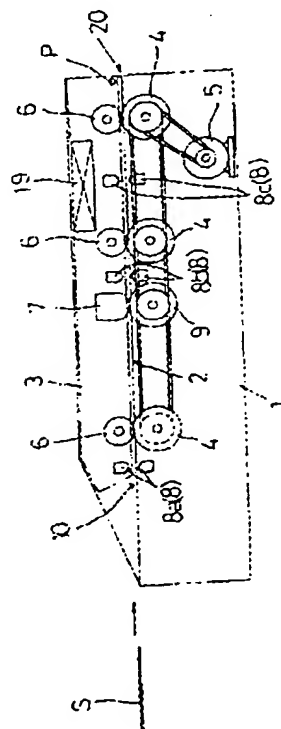
図面は本発明に係る紙端の鑑別装置の実施例を示し、第1図は装置の識別処理を示すブロック図、第2図は紙端鑑別装置の断面図、第3図(4)〜(5)は信号処理の説明図である。

(7)……吸気ヘッド、(14)……バルス化手段、(17)……記憶手段、(18)……比較手段、(5)……紙端。

代理人 弁理士 上 村 敏



第 2 圖



特許更正書(方式)

昭和60年4月12日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

昭和59年特許第202877号

2. 発明の名称

紙幣の識別方法及び装置

3. 修正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 大阪府大阪市西区南堀江1丁目2番2号

名 称 株式会社 ビルチャッカー

4. 代理人

住 所 〒531 大阪府大阪市大淀区豊島5丁目8番1号
北村特許ビル

電話 大阪 (06) 374-1221(代)

氏 名 (2097) 弁護士 北 村 寿

5. 修正命令の日付

昭和60年1月23日(発行日)

6. 修正の対象

明細書の「図面の簡単な説明」の欄

方式
審査



7. 修正の内容

明細書の第1頁11行目から14行目の「図面は……説明図である。」を1図面は本発明に係る装置の識別装置の実施例を示し、第1図は紙幣の識別過程を示すブロック図、第2図は紙幣識別装置の前面図、第3図は紙幣の処理の説明図であり、第3図(a)は紙幣の一端拡大平面図、第3図(b)は紙幣識別装置の出力信号を示すタイムチャート、第3図(c)はロータリエンコーダの出力信号を示すタイムチャート、第3図(d)は二酸化炭素の出力信号を示すタイムチャート、第3図(e)は紙幣出力信号が真である場合の検出二酸化炭素と基準二酸化炭素とを示すタイムチャート、第3図(f)は紙幣出力信号が真である場合の検出二酸化炭素と基準二酸化炭素とを示すタイムチャートである。」に訂正します。

代理人 弁護士 北 村 寿

